

高梁川流域 キッズ

たかはしがわりゅういき

高梁川流域の

し てい ぶん か ざい し せき

指定文化財(史跡)



場所

倉敷市真備町箭田



時代

古墳時代



指定年月日

昭和4(1929)年12月17日



追加指定

平成4(1992)年12月18日



所有

倉敷市

やたおおつかこぶん

箭田大塚古墳

新高総早
見梁社島
市市市町

倉敷市

矢井浅里笠
掛原口庄岡
町市市町市



この史跡について

県下三大巨石古墳のひとつ。内部にある石室は、巨大ないくつもの石を精密に組み合わせた横穴式の大空間で、入口の羨道とその奥の玄室に分かれています。

明治34年の調査で、須恵器や土師器などとともに、権力の強大さを示す刀剣・馬具・金環・勾玉などが発見されました。

石室全長は19.1m、うち玄室の長さ8.4m、幅3m、高さ3.8m。これまでは、前方後円墳とか帆立貝式古墳などと言われてきましたが、昭和58年の調査で周溝が見つかり、直径54m、高さ7mの円墳であることがわかっています。6世紀後半に造られたものと考えられています。